

# 胃 瘻

口からの食事が摂れない方や、食べてもむせ込んで肺炎などを起こしやすいう方に直接胃に栄養を入れる方法があります。

内視鏡を使ってお腹と胃に通り道を通り、専用のチューブを通して栄養剤を流し込みます。造られたお腹の口を『胃瘻』と言います。

『胃瘻カテーテル』と言います。

胃瘻を造っていても口からの食事が可能であれば食事をすることが出来ます。嚥下訓練や言語訓練も行えます。又、胃瘻カ



テーテルが露出した状態で浴槽につかってもお湯が胃内に入る事はないので入浴も可能です。

カテーテルは定期的な交換が必要ですが、胃瘻が不要になればカテーテルを抜去して元に戻す事ができます。

カテーテルは体内固定版が2タイプと対外固定版が2タイプの4種類があります。それぞれ長所・短所があり、在宅で交換できる物もあります。

担当医と相談の上個々の状態に合った適切な物を選択してもらいましょう。

状態に合った適切な物を選択してもらいましょう。

## ぜんそく 喘息について



喘息症状には、咳や痰、息苦しさ。「ゼーゼー」「ヒューヒュー」という喘鳴など、さまざまなものがあります。

また喘息症状は、夜間から明け方に起きることが多いのも特徴で、睡眠が妨げられることによって、日中の活動にも大きな影響を与えていると言われております。

症状が夜間から明け方に起きやすい理由として

### ①自律神経の問題

夜間は、体を休めるために副交感神経（ブレーキ）が働いて気道は狭くなり、症状がしやすい状態になります。

### ②気管支の中の分泌物

昼間は痰を飲んだり吐き出したりしますが、夜間は寝ているために痰が気管支の中にたまり、気管支を刺激して咳を起こし、発作になるといわれています。

### ③明け方の冷え込み

気管支は気温が急激に低下すると収縮しやすく、発作を起こしやすくなります。夜寝た時間に比べて明け方は平均的に5度～6度温度が下がり、気管支もこの時間帯が一番細くなります。

### ④抗原の問題

ダニは布団や枕に多く潜んでおり、布団に入って眠ろうとすると、それらを吸ってしまい、アレルギー反応を起こしてしまいます。夜間から明け方に、繰り返す咳や痰、息苦しさ、喘鳴などの症状に心当たりのある方は是非ご相談ください。



## 開放型病床に同行して

開放型病床とは地域医療機関（かかりつけ医）が入院先の病院に登録医として診療ができる病床です。

す。かかりつけ医が入院治療を必要とする患者さまを紹介し、入院後も患者さまの担当医として病院を訪問、入院先の病院の主治医と共同で治療を行うことができます。退院後、患者さまは引

き続きかかりつけ医の元で治療を受けていただきます。

### 開放型病院のメリット

・患者さまが普段から診療を受けているかかりつけ医の顔を入院中も見ることが出来ます。同行している私達も病状の確認や在宅に向けての支援、患者さまの気持ちや表情を見ることができ安心できます。

・退院後も、かかりつけ医は患者さまの入院中の経過を把握しているため、これまで受入困難だった胃ろうや気管カニューレ挿入している方も教えて頂いて在宅で診療を継続する事ができます。

電話予約：0799-62-5566（診療時間内）

ネット予約：<https://ssc6.doctorqube.com/soyama-clinic/>（24時間）

\*携帯電話からは右のQRコードからでも予約できます\*



診療予約はこちら